

風土記の丘の花だより²⁹⁵

今、そしてこれから見られる植物(2025年11月8日)

キンモクセイが満開で、風土記はその香りに包まれています。大池のカモの数が日に日に増えてきました。先日の雨のおかげか、キノコがたくさん顔を出しています。特に今年はナラタケが例年になくたくさん出ているように感じます。



コウヤボウキの花が咲き始めました。キク科ですが、よく見かける菊の花とは違う独特の形の花です。コウヤは和歌山県の高野山のことと、和歌山にちなんだ名前の植物の一つです。高野山のお坊さんがこの枝を集めてほうきを作ったことによる名前です。弘法大師のお教えで、高野山では竹を植える事が禁じられていたそうですよ。ごく普通の植物で、風土記の山ではあちこちの林床にたくさん生えています。もちろん、万葉植物園でも見ることができます。万葉植物園の入り口付近でリュウノウギクも咲き始めました。同じキク科ですが、上のコウヤボウキと違って、まさにキクらしいキクの花ですね。秋にはいろいろなキクの花が咲きますが、このあたりの里山に咲くこんなに真っ白なキクはリュウノウギクであることが多いですね。リュウノウとは香料の龍脳のことと、その香りがするというのですが、それが果たしてどんな香りなのか、香道をたしなんでいない私にはいささか分かり兼ねます。一度この花を手にとって嗅いでみてはいかがでしょうか。



下のトイレの近くや小早川家の庭などでチャノキの花が咲いています。チャノキという名前は馴染みがないですが、いわゆるお茶の木のことです。飲むためだけでなく、飾って楽しむためにもチャノキは人との関わりがとても深い木です。ツバキの仲間で、言われてみると白いツバキの花によく似ていますね。花が終わると花びらがヒラヒラ散るのではなく、花ごとポトリと落ちます。花の後には円い実ができる、割れると中から大きな種が顔を出します。それもツバキに似ていますね。



サルトリイバラの実が赤く色づいてきました。これから寒くなるにつれて赤色が濃くなり、クリスマスが近づくとリースを作られる方がよく探しに来られます。でも、実が付いていない株もあります。それは雄株でしょう。実は雌株にしか成りません。このあたりでは「さんきらい」など呼び、葉を端午の節句の柏餅を包む時に使います。最近販売されている柏餅は、本物のブナ科のカシワの葉で包まれているものが多いですね。

松下

